

PRISMAチェックリスト

セクション/ 項目	#	チェックリスト項目	報告頁
タイトル			
タイトル	1	その報告がシステマティック・レビューなのか、メタアナリシスなのか、あるいはその両方なのかを特定すること。	
抄録			
構造化抄録	2	背景, 目的, データの情報源, 研究の適格基準や参加者や介入, 研究の評価および統合方法, 結果, 限界, 結論ならびに主要結果の意味, システマティック・レビュー登録番号などの情報を適宜含んだ, 構造化された要約を提供すること。	
はじめに			
論拠	3	既知の事項と照らし合わせてレビューの理論的根拠を説明すること。	
目的	4	参加者, 介入, 比較対照, アウトカム, 研究デザイン(study design)と関連付けて(PICOS), 取り扱う疑問に関する明確なステートメントを提供すること。	
方法			
研究計画書と登録	5	レビューの研究計画書の有無や, そのアクセス可能性とアクセス可能な場所(例: ウェブアドレス)を示し, また入手可能であれば登録番号を含む登録情報を提供すること。	
適格基準	6	適格基準として採用された研究特性(例: PICOS, 追跡期間の長さ)や報告特性(例: 検討した年数, 言語, 出版状況)について, 理論的根拠を示しながら明示すること。	
情報源	7	検索における全情報源(例: データベースと対象期間, 追加的な研究を特定するための著者への連絡)ならびに最終検索日を示すこと。	
検索	8	少なくとも1つのデータベースの電子検索式について, 使用されたあらゆる“limits”を含め, 再現できるくらいに詳細に示すこと。	
研究の選択	9	研究の選択過程(すなわち, スクリーニング, 適格性, システマティック・レビューへの組み入れ, また, 該当する場合はメタアナリシスへの組み入れ)を提示すること。	
データの抽出過程	10	報告からのデータ抽出方法(例: 見本用書式, 独立して抽出, 2重に抽出), ならびに研究者からデータを入手し, 確認するためのあらゆるプロセスについて説明すること。	
データ項目	11	取得されたすべてのデータ項目(例: PICOS, 資金提供者), ならびにあらゆる仮定や単純化を列挙, 定義すること。	

個々の研究のrisk of bias	12	個々の研究のrisk of biasを評価するために用いられた方法(これが研究レベルで行われたのか、アウトカムレベルで行われたかの明示を含む)、そしてこの情報があらゆるデータ統合においてどのように使用されるのかを説明すること。	
要約指標	13	主な要約指標(例:リスク比, 平均差)を提示すること。	
結果の統合	14	データの取り扱い方法, そして実施されていれば各メタアナリシスにおける一貫性(例:I ²)の指標も含め, 研究結果の統合方法について説明すること。	
研究全般に関するバイアスのリスク	15	累積エビデンスに影響するかもしれないあらゆるバイアスのリスク評価(例:出版バイアス, 研究内での選択的報告)について明示すること。	
追加的な分析	16	追加的な分析(例:感度分析またはサブグループ解析, メタ回帰分析)が実施されていれば, その方法を説明し, そのうちのいずれが事前に規定されていたのかを示すこと。	
結果			
研究の選択	17	スクリーニングされた研究, 適格性が評価された研究, レビューに加えられた研究の件数を示し, 各段階での除外の理由について, 理想的にはフローチャートを用いて述べること。	
研究の特性	18	各研究について, データ抽出が行われる手がかりとなった特性(例:研究の規模, PICOS, 追跡期間)を示し, 引用を提示すること。	
研究内のrisk of bias	19	各研究のrisk of bias に関するデータ, そして入手可能であれば, アウトカムレベルのあらゆる評価を提示すること(項目12 参照)	
個々の研究の結果	20	検討対象となったすべてのアウトカム(利益や害)について, 研究別に(a) 各介入群に関する簡単な要約データ, (b) 効果推定値と信頼区間を, できればフォレストプロットを付けて提示すること。	
結果の統合	21	実施された各メタアナリシスの結果を信頼区間や一貫性の指標を含めて提示すること。	
研究全般に関するバイアスのリスク	22	研究全般に関するあらゆるバイアスのリスクの評価の結果を提示すること(項目15 参照)。	
追加的な分析	23	追加的な分析 [例:感度分析またはサブグループ解析, メタ回帰分析(項目16 参照)] が実施されていれば, その結果を示すこと。	
考察			
エビデンスの要約	24	各主要アウトカムに関して, エビデンスの強さを含め, 主な結果について要約すること。またそれらが主要な集団(例:医療提供者, 利用者, 政策決定者)とどう関係しているか検討すること。	
限界	25	研究レベルおよびアウトカムレベルにおける限界(例:バイアスのリスク), およびレビューレベルにおける限界(例:特定された研究が完全に検索されていない, 報告バイアス)について議論すること。	

結論	26	結果の一般的解釈を他のエビデンスと関連付けて提示し、今後の研究への影響を示すこと。	
資金			
資金	27	システマティック・レビューの資金提供者、ならびにその他の支援(例:データの提供)、そしてシステマティック・レビューにおける資金提供者の役割について説明すること。	

From: Moher D, Liberati A, Tetzlaff J, Altman DG, The PRISMA Group (2009). Preferred Reporting Items for Systematic Reviews and Meta-Analyses: The PRISMA Statement. PLoS Med 6(6): e1000097. doi:10.1371/journal.pmed1000097

For more information, visit: www.prisma-statement.org. Page 2 of 2